合格体験記（一般入学試験）

表象文化 学部 英語英文 学科 専攻

出身高校名 大手前 高校

（1）同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

母が本学の出身であることから興味を持ち、入試の形式を見て、自分の得意分野が活かせると考えたため。また、「学生の街」と呼ばれるように、他大学との交流が盛んで、交通の便も良いため。

（2）一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

まだ受験生という自覚がなく、のんびり過ごしていました。やがて部活引退と共に勉強に充てる時間が必然的に増えましたが、勉強への姿勢はあまり改善せず、家ではむしろスマートフォンを触る時間が増えました。ただ、その分、（1,2年の頃から）学校の授業には真剣に取り組んでいました。たとえ小テストでも甘く見ずに、一回一回大切にしていました。

〔夏休み〕

私は塾に通っていなかったので、夏休みは家に引きこもっていました。この頃の私は理系選択だったのですが、理系科目が苦手で、ひたすら物理や化学、数学の問題ばかり解いていました。英語や国語は、夏休みが終わってからセンター過去問を解き始めました。今週はこの教科、という大雑把な計画を立て、理系科目を主に、少しずつ復習していきましたが、はっきり言って、夏休みはあまり有効活用できませんでした。

〔2学期～入試直前〕

結局、センター試験はうまくいかず、国公立は断念。そこで、上記の理由で志望校を同志社女子大学に変更。その後はひたすら過去問を解きました。英語に関しては、単語やイディオムを1,2年生の時からコツコツと頑張ってきたのが役に立ちました。英語・国語の長文読解は、とにかく内容理解が大切。普段から長文に触れて慣らしましょう。私は学校の授業でセンターの過去問を何度も解いていたので、それも良い対策になりました。本番当日は、焦らず落ち着いて、いつも通り読めば大丈夫です。そして一番大切なのが、見直し。過去問を解く中でも、見直しによる発見は多々あります。本当に、見直し、なめるべからず、ですよ。

（3）この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

高校の行事は、勉強のことは忘れて思いっきり楽しむべきです。でもその後の切り替えはしっかりと。ここで切り替えられるかどうかによって、今後の勉強が左右されます。健康面に関しては、マスクを着用することと、病気に負けないくらいの強い気持ちを持つこと。また、受験期は精神的にも肉体的にも弱りがちなので、息抜きも必要です。私の場合は、寝る前に音楽を聴いたり、YouTubeを見たりする時間を設けていました。ただし、これが原因で寝不足になった私のようには決してならないでください。特に、YouTubeは、見始めると止まらなくなることが多いので、受験が終わるまで我慢した方が良さそうです。

（4）受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

こうして自分の合格体験記を見直すと、受験生としては決して良いとは言えない例で、後悔しているのでは、と思われるかもしれません。確かに、もっと意識が高ければ、違う自分になっていたのかもしれません。しかし、後悔はありません。自分にとって理想の大学に出会えたのですから。皆さんも自分が納得できる大学を見つけ、合格を勝ち取ってくださいね。